

クラウドシステムがもたらすものと弊社の挑戦

株式会社 ユーサイドシステム

代表取締役 佐久間 邦雄

リーマンショック以来の不景気により、ソフト産業は新規開発案件の減少の結果仕事不足と人余りの状況を呈しております。一方で、このところクラウドシステムの取り組みについての記事が富に増えております。こうした状況は何を物語っておるのでしょうか。

これまで日本のソフト産業はバブル崩壊後の一時期、低迷があったものの一貫して右肩上がりの需要に支えられ仕事の確保よりは人材確保が優先し、仕事をいかに作るかについての努力をしないで済んでまいりました。現在の仕事不足は一過性のものなのか、あるいはソフト産業に大きな構造的変革をせまるものなのでしょうか。これまでのような需要に対する規模による対応力が、コスト高と言えどユーザーの信頼を勝ち得た時代は過去のものとなり、他産業で当たり前の技術力とコストによる競争を強いられる時代の到来を予感せざるを得ないように思います。

それは、クラウドシステムによって大きな変化をこの業界にもたらすものと思います。これまでのソフト産業は特定ユーザー依頼の受託開発が主流で、そのユーザーニーズに忠実に対応すればよく、また開発費は保証されておりました。しかしクラウドシステムの開発は不特定なユーザーニーズに応える必要があり、更に開発費の回収は保証されるものでなく又長期になります。極めてリスクの高い開発になるはずで。

不特定ユーザーニーズに応えるシステム開発は、極めて汎用的でフットワークの軽いシステムであることが条件づけられ、その開発には高度なシステム分析能力が求められ、また高度なWeb開発技術が求められます。更に、クラウドシステムの行く先は国内にとどまらず、グローバルな世界的サービス競争をもたらすと考えられます。

従って、クラウドシステムではこれまでの開発以上の能力と技術力を要求される一方、不特定な多くのユーザー獲得には低料金での提供が要求され、低コストでの開発が必須条件になります。こうした相反する要求をどのように解決するか、その解決をなしえた者のみがこれからのソフト産業における勝者になるものと考えられます。

それを可能にするものは、これまでのような多くの人間を擁しての人手作業による開発ではなく、経験豊かなシステム設計者と少数精鋭なスタッフによるプログラム自動生成化によってはじめて可能になります。仮にユーザーニーズの読みがはずれても、何本かのプロジェクトのうち1本でも当れば採算が取れるというようなリスク回避には低コストでの開発が要求されます。

しかしながら、こうした流れはクラウドシステムの開発にとどまらず、大企業の大規模開発にも大きな影響を与えるはずで。クラウドシステム開発の成功者に対して、大手ユーザーもその実績とコストを評価し、仕事の依頼をすることは火を見るより明らかです。

弊社は8年前よりWebシステムの自動生成化に取り組み、JavaアプレットによるリッチクライアントとPdf作表を特徴とする「Webロボ」を開発し、アパレル向けWebポスレジシステム、合併漁協でのWeb会計システム、Web漁協販売管理システムにおいて実績を作っていました。

更にクラウドによる産直販売管理システムの開発を終え、現在Webポスレジとフェリカカードによる商店街ポイントシステムを開発しております。

今後弊社は、クラウドシステム時代を迎えて以下のような展開を考えております。

1：「Webロボ」利用普及

大学での利用

大学授業での無償ないし低料金での提供により、具体的開発テーマでのJavaプログラム自動生成により言語教育をサポートするとともに、自動生成技術への関心と取り組みを醸成する。

10月より茨城大学において2クライアントシステムを提供、その結果により他大学への提供を進める予定

月額使用料での有料利用

大手企業電算部、自治体電算部、ソフト開発会社への有料での提供

「Webロボによるリモート開発」説明会を開催し、月額使用料による有料利用者を募る

2：弊社開発クラウドシステムの展開

Webポスレジ

弊社ユーザー漁協のPosレジ交換で、弊社開発Webポスレジを10月末をめどに、提供予定。

この稼動を踏まえて月額使用料によるWebポスレジの提供を本格化

Web会計システム

科目体系が5レベルで極めて汎用的な開発済み漁協Web会計システムを他業界用Web会計システム開発用に低ライセンス料で「Webロボ」定義付で提供する。

開発者は「Webロボ」によりカスタマイズが容易に出来るとともに、自らのパッケージとしての普及を可能とする。

「Web産直繁盛」

産直用の販売管理システムで、システム導入ができない小規模な産直品生産者向けの月額使用料でのシステム

現在開発済みながら、農協漁協組織、宅配運輸会社等の当システムの運営会社を募っております。

別途、Webポスレジのノウハウにより直売所向けWebポスレジは開発済みで今後、後方の管理システムを開発予定

「Web産直繁盛」と直売所システムの連携により、農商工連携の施策の支援システムとして機能させることができ、地域振興に携わる地方の行政機関の支持を得ることも可能なシステム

商店街ポイントシステム

Webポスレジにフェリカカード読込機能を付加することにより、ユーザーの手持フェリカカードを商店街の共通ポイントカードとして機能させる。

これによって、地域の零細な商店でもポイントの発行が可能になるとともに、年齢男女別、地区別、前年対比等の商店街全体、個別店舗の売上分析が可能になる。

更には、高齢者向け配達システム構築をも想定。

年内開発完了予定で、当システムの販売協力者による展開

冷蔵庫等の倉庫業Webシステムの開発

すでに弊社において、クライアントサバーによる2漁協での冷蔵庫管理システムを稼働させております。

この仕様で、Webシステム化を想定しております。

今後、この業界においてもWeb化によりリアルタイムに預けた商品の在庫閲覧と入出庫指示が可能になり、クラウドによるシステム提供が進むものと想定されます。大手倉庫業者においてはWeb化がされておりますが、中小業者ではWeb化どころか、システム化もされておらないところもあります。

全国を束ねる社団法人のもとに、各県単位に協会が組織されております。

3 : 「Webロボ」による国内オフショア受託開発

もともと「Webロボ」の開発はオフショアに対抗して、地方に中央からの開発案件を誘導することを意図したものです。

弊社のこれまでの開発経験と「Webロボ」による生産性、高品質、高保守性とリモート開発により、中小ソフト会社連携での受託を推進したいと思っております。ことに、現在極めて深刻な中国との領有権問題を考えたとき、社会インフラであるコンピュータシステムの安全性確保の観点から、これまでのような安易なオフショア開発は再考されなくてはなりません。

国家の安全保障、技術的空洞化の回避という観点のみならず、コスト的にも「Webロボ」による開発は十分オフショアに対抗できるものなのです。

中国との今回の摩擦を考えたとき、日本の中国への対抗カードは高度な技術しかなく、コンピューター技術を中国に依存するようなことは将来に禍根を残すものと言わざるを得ません。